知事が行く！突撃取材！Part2 ～三重のひと～

第23回

～熱を操るユニークな技術！～

“台所からロケットまで” 驚きのモノづくり

インタビュー詳細版

（お話いただいた方）
オキツモ株式会社
代表取締役社長　山中（やまなか） 重治（しげはる）さん
（聞き手）
三重県知事　鈴木 英敬

山中（やまなか） 重治（しげはる）さん

知事：山中社長にお聞きします。オキツモさんは創業以来、三重を舞台に耐熱塗料の分野で世界をリードされています。三重を拠点に、世界を相手にモノづくりを行う上で大切にしていることは何ですか。

山中：三重県の名張の地は、どちらかというと不便なところです。当社は、オキツモに社名変更した際に耐熱塗料に特化することを決めました。もともと耐熱塗料へのニーズは少なかったんです。桑名の鋳物屋さんからお願いされて作ったぐらいでした。多くは木工用の塗料やワックスなどの下請けの仕事をしていました。しかし、他社と同じものを作っていては、地の利を生かして商売ができる都心部の会社に負けてしまう。やはり自分らの特徴を出した商品で勝負しないといけない。そこで特徴を持った商品でビジネスを展開していこうということで社名をオキツモに変え、事業を行ってきました。それが現在も当社のモノづくりの中心になっています。

おかげさまで今では耐熱塗料をはじめ、さまざまな機能を持った商品を展開しています。そういった意味では、自社の特徴が出せるモノづくりができれば、三重県でも、国内のどこの地域でも、たとえアメリカでもインドでも事業展開ができます。当社では、お客様のニーズに沿ったものを提供していくということを使命としてユニークな商品プラスお客様の困りごとを解決していく商品、この２つを重視してモノづくりを行っています。

現在の社名は創業者が開発した日本初の耐熱塗料「おきつも」が由来だそうです。創業時より果敢な挑戦を行い、商品を開発してきたんですね。

知事：なるほど。お客様のニーズに合わせたユニークなモノづくりの結果が、さまざまなオンリーワンの商品の開発につながっているんですね。こうした塗料に付与する機能にはさまざまな展開があると思いますが、その可能性について教えていただけますか。

ロケットの発射台を守る耐熱塗料について説明を聞きました。3000℃の熱から保護するため、10㎝ほどの厚みがあります。

山中：はい。塗料は表面に数ミクロンの薄い膜をのせることで表面状態が変わり、それに伴って、いろんな機能を付けることができます。これは非常に商品として面白いですし、製作工程の中で、ちょっとうまくいかないなという課題が出てきた際も、そのプラスアルファの機能を後で付けられるというところが、お客様にとってメリットがあると思います。それだけに、まだまだいろんな可能性があると思います。

例えば、ヘビはニョロニョロ動き、ツルツルしたところでもザラザラしたところでも、あるいは壁でも登ることができますよね。あれは、鱗（うろこ）からオイルのようなものを出しているそうです。表面状態をなじませながらオイルを出すことで、壁を登ったり、泳いだりすることもできます。表面の状態を変えることで、もともと持ってる機能にプラスする、あるいは全く違う機能を出すということが、たった数ミクロンのことでできてしまいます。塗料の持つ、その面白さは非常に可能性があると思います。

やけどや結露の防止に活用できる断熱塗料を開発。手で触れると温度の違いがよく分かります。

知事：なるほど。一定の機能のものではなく、後で足してみて機能を変化させていくことができるので、どんどん広がりがある商品になるわけですね。そうしたオリジナリティあふれる革新的な塗料を開発するために、工夫されていることはありますか。

山中：やっぱり最初から無理だなぁと思うと新しいものが全然できません。まずトライしてみること。全く箸にも棒にもかからないことをやり続けることは非効率ですけれども、でも一度はトライしてみることにしています。野球もそうですけど3割も打てればＯＫじゃないですか。2～3割いいものができればいいというスタンスでやっています。

例えばインクには、インクを熱で固める熱硬化型と紫外線を当てて固める紫外線硬化型があります。電子基板の場合、熱をかけると基板そのものが曲がってしまい、他の所に影響を及ぼす問題が出てきます。そのため当社では熱を使わない紫外線硬化型で開発を進めました。ところがこちらの技術が難しかったんですね。紫外線硬化と耐熱性を両立するのは非常に難しい。できないんじゃないのかと言われていました。実際、当社は耐熱の技術を持っていますが、紫外線の硬化技術は持っていませんでした。なかなか難しいテーマでしたが、まずはトライしてみようという中で成功することができました。やはりチャレンジ精神

を持って商品開発するということが良い結果につながっているかなと思います。

知事：それでは最後に、オキツモはこれからどういう会社でありたいと思われますか。山中社長の夢や社員の皆さんと取り組みたいことなどを教えてください。

山中：ずっと言い続けていることで何ですが、ユニークさというのが我々の特徴であり、そこが生命線でもあると思っています。今、日本の中でも面白い会社、ユニークなものを作る会社ということで認知していただけるようになってきたと思います。これを世界から見ても、やっぱりオキツモしか作れないものがある、オキツモに頼めば何か面白いものを作ってもらえるんじゃないか、そういう評判がとれるような会社にしていきたいと思います。

知事：なるほど。これからもオキツモの面白いチャレンジに期待していますので頑張ってください。
ありがとうございました。

山中：ありがとうございました。

塗料の生産工程を見学しました。

製品の品質を決める計量工程は、計測ミスが起きないようコンピューター管理されています。

※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。
※記載内容、写真の無断転載を禁じます。
※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13
☎ 059･224･2788　FAX 059･224･2032
E-mail　koho@pref.mie.jp